

今年の夏は長雨と猛暑にみまわれ、更に春からのコロナ禍騒動に翻弄され、本来の四季の移ろいを楽しむ暇もなく、もう暦の上では立冬。焼津もすでに晩秋のたたずまいです。そんな中、芸術の秋を堪能できるよう、【焼津市文化センター開館35周年記念事業・静岡県立美術館 移動美術展「石田徹也を中心に」】が開催されております。



移動美術展ポスター

石田徹也(いしだてつや)さんは1973年(昭和48年)に焼津市に生まれ、焼津市立小川小・中学校から焼津中央高校へ、そして武蔵野美術大学を卒業後、東京で精力的に画家として活躍されましたが、2005年(平成17年)不慮の事故で31歳の若さで亡くなりました。

およそ10年足らずの短い作家生活で約200点の作品を残し、グラフィックアート展でグランプリを受賞、その後も数多くの賞を受賞し、若手の現代美術家として注目を集めました。国内での個展のみならず、諸外国でも高い評価を受け、特に昨年は、パブロ・ピカソの「ゲルニカ」を常設展示しているスペインの国立美術館・ソフィア王妃芸術センターで個展が開かれ、約30万人以上の来場者が訪れたとのこと。

そんな貴重な作品を地元焼津で観ることができるということで、早速焼津文化会館に伺いました。

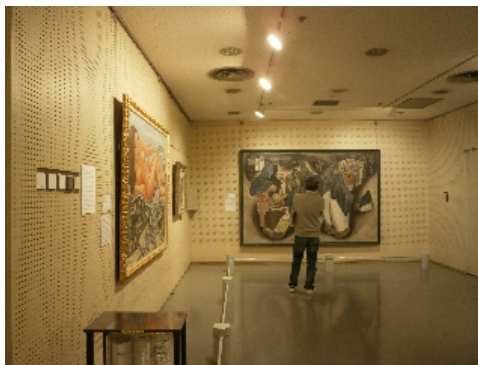


移動美術展入口

開館を待ちわびた皆さんが、程よいソーシャルディスタンスを保ちながら、それぞれのペースでゆっくり鑑賞されていました。



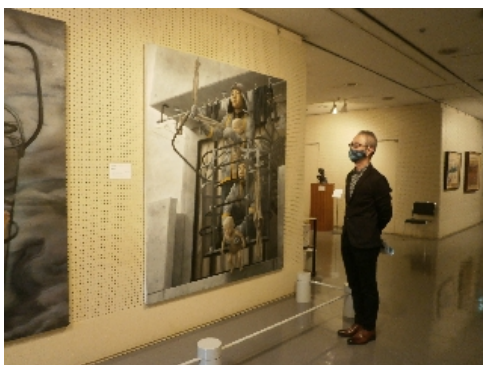
[移動美術展風景\(1\)](#)



[移動美術展風景\(2\)](#)

私も小川小・中学校卒業で、とても身近に感じています。幸運なことに石田徹也さんのお兄様とお会いできて、徹也さんの作風の変遷などをお聞きすることができました。どの作品を観ても、何回観ても、観る人の心に何かを問いかけてくる作品で、私は特に”無題6”に魅了されました。

また、もう一人、地元島田市出身の画家・北川民次さんの作品も展示されています。さらに、横山大観、東山魁夷の両巨頭の富士山が並んで展示されていて引き付けられました。



[移動美術展風景\(3\)](#)



[移動美術展風景\(4\)](#)

会場出口で長いことアンケート用紙にペンを走らせていた女性に、移動美術展の感想をお聞きしましたら、「今日は静岡からコンサートのチケットを買いに来たんですが、移動美術展もやっていたので寄りました。静岡県立美術館や静岡市立美術館にも良く行き、石田徹也さんの作品も観ますが、今回の移動美術展では、北川民次さんの明るく開放的な“雑草のごとく皿(裸婦)”に一番惹かれました。」とお答えいただきました。



[アンケート記入コーナー](#)

私も、今度は静岡南幹線道路から枯葉舞うプロムナードをゆっくり登り、静岡県立美術館の作品群に会いに行きたいなと思いました。

◆静岡県立美術館移動美術展「石田徹也を中心に」
日時：令和2年11月10日(火)～11月25日(水)

休館日:11月16日(月)及び24日(火)
開館時間:9時00分～17時00分(最終入場は16時30分)
入場料:無料
会場:焼津文化会館 1階 展示室
焼津市三ヶ名1550番地 TEL 054-627-3111

取材:志太・榛北地区担当 生きがい特派員 宮島克実